



市民病院

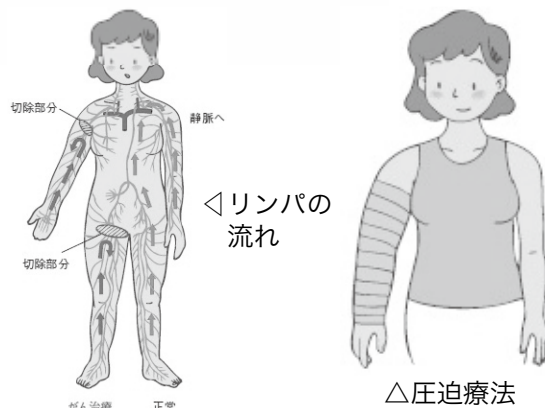
ハナちゃん通信

問合せ
市民病院管理課
☎(48)5050

リンパ浮腫ケア外来を再開しました

手術でリンパ節を取り除いたり、放射線治療を受けたあとは、リンパの流れが停滞し、むくむことがあります。これをリンパ浮腫と呼び、手術後すぐに症状がでる人から、10年以上たってから発症する人もいます。リンパ浮腫は痛みや皮膚の変色を起こさないことが多く、合併症で蜂窩織炎という感染症にかかることがあります。細菌感染により皮膚の深いところで化膿性の炎症がおこり、皮膚が赤くはれ、ひどいときには敗血症に発展することもあるため、注意が必要です。

リンパ浮腫ケア外来では、皮膚を触ってリンパ液を流れやすくしたり、包帯を巻いてむくみ改善のお手伝いをしています。「自分だけだと思っていた」と言う患者さんによく会いますが、リンパ浮腫の人はたくさんいます。自分だけだと思わず、まずは主治医に相談してみてください。



リンパ浮腫ケア外来

とき 第2・4金曜日 9時～15時

ところ 市民病院

担当 岡田照代（リンパドレナージセラピスト）

費用 3,500円

※健康保険は使えません。包帯代などが別途必要です。

申込み 事前に市民病院

※市民病院へ通院中でない人は、事前に市民病院の医師の診察が必要です。

碧南の歴史へのいざない

問合せ 文化財課内市史資料調査室 ☎(41)4566

No.33 富める者にも貧しい者にも公平に 医聖・永田徳本

右の写真は音羽町の徳本稲荷（宝珠寺境内）の右脇にある「徳本翁碑」です。この碑で顕彰されている碧南市ゆかりの医聖・永田（長田）徳本をご紹介します。

徳本は、「トクホン」でおなじみの貼付剤の名前の由来になった人で、戦国時代から江戸時代前期に活躍しました。諸国を牛の背に乗って周遊し一服18文と定めて、世の医師に模範を示しました。將軍秀忠にも庶民と同じように診察したという逸話が残っています。



△徳本翁碑

徳本は、永正10年（1513年）に大浜に生まれ、寛永7年（1630年）に今の長野県岡谷市にて118歳で亡くなりました。

医術を富める者にも貧しい者にも公平に施した徳本の名声は、江戸時代の後半になるとますます高まり、麻疹予防にも一役買いました。

幕末に大浜の磯貝天錫が永田徳本の徳をたたえ、感謝の意をこめて、「徳本翁碑」を建立しました。天錫は、江戸で儒官の塩谷岩陰に文を頼み、谷中の石匠である広瀬群鶴に文字を刻ませました。江戸から廻船で運ばれたであろうこの石碑が、碧南市ゆかりの「トクホンさん」を今に伝えています。

この永田徳本と、No19で紹介した近藤坦平を中心に、碧南市ゆかりの医人にまつわる資料を展示する企画展「碧南の医人展」を、1月21日(土)から藤井達吉現代美術館で開催します。是非お越しください。